

授業科目名	動物薬理学Ⅱ	科目コード	2301047		
開講クラス	動物看護師科	コース	動物看護師コース	学 年	3年
担当教員	堀脇浩二（非常勤講師）				
	実務経験教員（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無 ） 実務経験内容 獣医師免許 ひかり動物病院院長 現場での症例を事例として授業に取り入れている				
開講時期	前期・後期・ <input checked="" type="checkbox"/> 通年・特別講義・その他		授業コマ数	31 時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 ・ <input type="checkbox"/> 選 択 ・ <input type="checkbox"/> 選択必須		単 位 数	2 単位	
使 用 テキスト 1	書 名	愛玩動物看護師の教科書 第3巻			
	著 者	編：緑書房編集部			
	出版社	株式会社緑書房			
使 用 テキスト 2	書 名				
	著 者				
	出版社				
参考図書					
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ <input type="checkbox"/> 演習 ・ <input type="checkbox"/> 実習 ・ <input type="checkbox"/> 実験 ・ <input type="checkbox"/> その他（ ）				
<p><授業の目的・目標> 動物看護師の業務には調剤の補助と投薬があるが、どちらも薬物に関する知識が不可欠である。この科目では薬物の基本的な知識を習得し、治療に使用する薬が体に有害な作用を表す毒物にならないようにすることを目標とする。</p>					
<p><授業の概要・授業方針> 薬についての総論では、薬理作用、薬用量、取り扱う際の注意などを学習し、各論では動物病院で使用される主な薬剤の薬理作用、副作用、取り扱い上の注意点について、器官ごとに進めていく。</p>					
<p><成績基準・評価基準> 前期と後期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。評価の基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、追試においては60～100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。 通年の評価は、前期と後期の本試験の点数の平均を算出し、その平均点が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とする。</p>					
<p><使用問題集・注意事項></p>					

<授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他>
動物形態機能学Ⅰ、Ⅱ、動物臨床看護学各論Ⅰ、Ⅱ

授業科目名		動物薬理学Ⅱ
回	授 業 内 容	備 考
1	科目概要、学習目標、前年度の復習	
2	神経系に作用する薬	
3	麻酔前投与薬、全身麻酔薬（吸入麻酔薬）	
4	神経系に作用する薬 全身麻酔薬（注射麻酔薬）、局所麻酔薬	
5	↓	
6	神経系に作用する薬 鎮静薬・催眠薬	
7	↓	
8	神経系に作用する薬 問題行動治療薬、鎮痛薬	
9	↓	
10	神経系に作用する薬 抗てんかん薬、交感神経・副交感神経の作動薬・遮断薬	
11	↓	
12	抗炎症薬 炎症とは、抗炎症薬（ステロイド系抗炎症薬）	
13	↓	
14	抗炎症薬（非ステロイド系抗炎症薬、抗ヒスタミン薬）	
15	前期まとめ	
16	循環器・血液系に作用する薬 強心薬、血管拡張薬、抗不整脈薬、止血剤、抗血栓薬、抗貧血薬	
17	↓	
18	呼吸器系に作用する薬 呼吸促進薬、鎮咳薬、去痰薬、気管支拡張薬	
19	↓	
20	泌尿器系に作用する薬 利尿薬、吸着薬、尿崩症治療薬	
21	↓	
22	消化器系に作用する薬	

(学) 宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校
2023年度 授業シラバス

	潰瘍治療薬、防御因子増強薬、催吐薬、制吐薬、止瀉薬、下剤	
23	↓	
24	消化器系に作用する薬 肝機能改善薬、利胆薬、膵液分泌抑制薬、消化酵素	
25	↓	
26	病原微生物に対する薬 抗菌薬の種類、作用機序、効果、使用上の注意、副作用	
27	↓	
28	ホルモン薬 甲状腺、糖尿病、副腎皮質ホルモン、性ホルモン	
29	↓	
30	後期まとめ	
31	総復習	